

大阪の宿 (1954)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 122分
初公開日 1954/04/20

【解説】

水上瀧太郎の同名小説を、五所平之助が八住利雄とともに脚色し監督したドラマ。五所の演出はもちろん、俳優陣の演技、小原譲治の撮影、芥川也寸志の音楽、松山崇の美術ともに高い評価を受けた。

保険会社勤務の三田は、重役を殴ってしまったことから、東京から大阪へと左遷された。住まいは安旅館の酔月荘で、そこには三人の女中がいた。客の金を盗み追放されたおりか、多忙のため一人息子に会えないおつぎ、三田を口説こうとするお米。また宿には、大酒飲みの芸者うわばみが訪ねてきていた。彼女の目当ては三田だったが、三田は他の女性に心を奪われていた。通勤途中に必ず会う、井元貴美子という女性だ。しかし彼女の父は、三田が勤める会社とのトラブルで自殺していた。

【クレジット】

監督 五所平之助
原作 水上瀧太郎
脚本 八住利雄
五所平之助
撮影 小原譲治
音楽 芥川也寸志
出演 佐野周二
乙羽信子
水戸光子
安西郷子
左幸子